

- 気象庁では、線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いことが予想された場合、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使ってその旨を呼びかけている（令和6年5月から府県単位での呼びかけを実施）。
- 令和8年5月からは、今後3時間以内に線状降水帯が発生する可能性が高まっていることをお知らせする、線状降水帯直前予測を発表している。
- 令和8年8月30日時点における線状降水帯の事例数は、12事例（地方予報区単位）

※ 線状降水帯の事例の数え方は、線状降水帯の雨域は複数の県にまたがる場合もあるため、令和5年度以前と同様に地方予報区（全国を11ブロックに分けた地域）単位としている。
そのため、半日前予測における府県単位での発生数、直前予測における一次細分区域単位での発生数は異なる場合がある。

線状降水帯半日前予測（府県単位でのとりまとめ結果）

	運用開始前の想定 (令和5年のデータから検証)	令和8年(8月30日時点)
【適中率】	25%程度 (4回に1回程度)	約15% (53回中8回)
【捕捉率】	50%程度 (2回に1回程度)	約47% (17回中8回)

参考：予測「あり」のうち
3時間降水量が100mm以上の大雨

約57% (53回中30回)

この情報が発表された場合、ハザードマップや避難所・避難経路を確認するとともに、今後発表される防災気象情報や自治体からの避難情報に留意するなど、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要。

※線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いことが予想された場合、「気象解説情報（線状降水帯半日前予測）」にて、その旨を府県単位を対象に発表（令和6年5月より運用）

線状降水帯直前予測（一次細分区域でのとりまとめ結果）

	運用開始前の想定 (令和5～6年のデータから検証)	令和8年(8月30日時点)
【適中率】	50%程度 (2回に1回程度)	約30% (53回中16回)
【捕捉率】	80%程度 (5回に4回程度)	約62% (26回中16回)

参考：予測「あり」のうち
3時間降水量が100mm以上の大雨

約91% (53回中48回)

この情報が発表された場合、短時間で線状降水帯による大雨またはそれに匹敵する大雨に至る可能性が高いことから、周辺の状況や自治体による避難情報等に留意し、速やかに適切な防災行動をとることが重要。

※今後3時間以内に線状降水帯が発生する可能性が高まっていることを「気象防災速報（線状降水帯直前予測）」にて、一次細分区域（天気予報での区分）を対象として発表（令和8年5月より運用）

「適中率」は予測をした中で発生した割合、「捕捉率」は発生したうち事前に予測していた割合を表し、ともに高いほうが良い